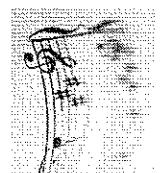


平成24年度 落合高等学校進路課通信 (普通科版)

風の階段 踏みしめて ~自己実現へ向かう道~



第16号 平成24年8月22日(水)発行

「幸せ、満ちあふれる 湯の中につかる」 ~住宅顕信の自由律~

自由律(俳句)には、人間味あふれる豊かな情感がある。代表的な自由律俳句を比較する。

種田山頭火	尾崎放哉	住宅顕信
1882～1940 山口県出身	1885～1926 島根県出身	1961～1987 岡山県出身
うしろすがたの しぐれでいくか ※しぐれ(時雨)=冬の季語	咳をしても一人 春の山のうしろから 煙(けむり)が出だした (辞世の句)	幸せ、 満ちあふれる 湯の中につかる
音はしぐれか どうしようもない私が 抜いている	足の裏 洗えば 白くなる	すぶぬれて 大ごろ 泣くだけ 泣いてしまった顔
分け入っても 青い山	いれものがない 両手でうける	氷枕に支えられている 白い天井
鴉(からす) 啼(な) いて わたしも一人	一人の道が暮れてきた	水滴の 一つ一つが 笑っている顔だ
すべても ころんでも 山がひつそり	こんなよい月を 一人で見て寝る	若さとは こんなに淋しい 春なのか
まっすぐな道でさみしい		

孤独感とはすべての人と共に通するものだ。一人でたたずむとき、勉励するとき、この孤独な時間は貴重だ。先人の俳句のように、病苦と闘いながら、藝術性を増すといった観点はすべて的人にすすめられるものではない。むしろ、現実の中で、現実に直面し、対処し、よい生き方・在り方を考えていくことに、人生はほかならないと思う。孤独な時、ふと、上のような俳句を思い出し、ふと懐かしくなるときがあつてよい。現実と向き合うとき、勉学に向かうとき、ささやかな励みになってくれれば幸甚である。あなたのお好きな俳句はあつただろうか。

**【チェックリスト】**  
□毎日、10時間以上学習した。 □内発的・主体的な学習を貫徹できた。(学習力の育成・定着)  
□基礎・基本の事項を整理・定着させた。 □苦手分野を克服できた。 □得意分野を伸張できた。